

# 経済・金融 フラッシュ

## 5月マネー統計：

### 銀行貸出の減少が続く、明確なビジョンが示されるか？

経済調査部門 シニアエコノミスト 上野 剛志

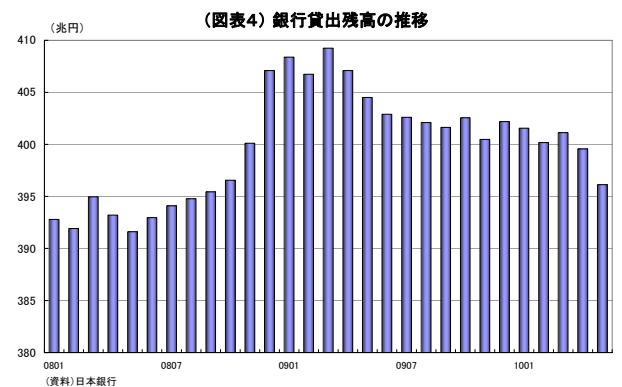
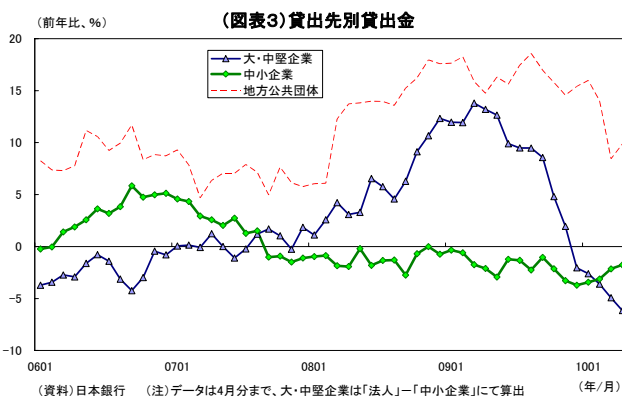
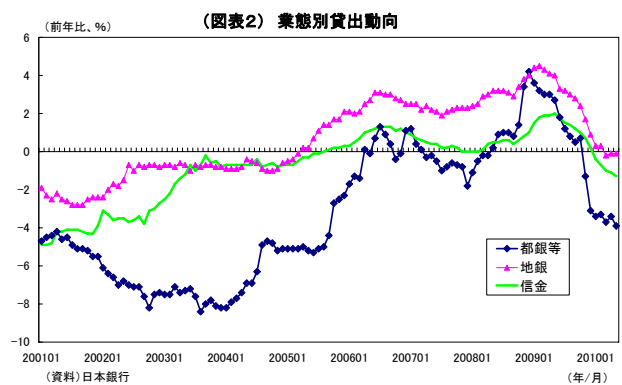
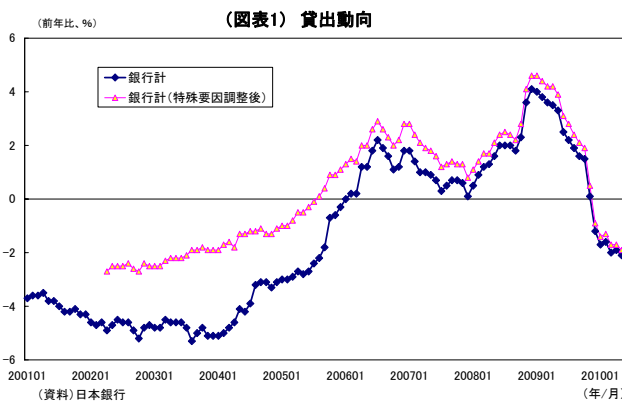
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

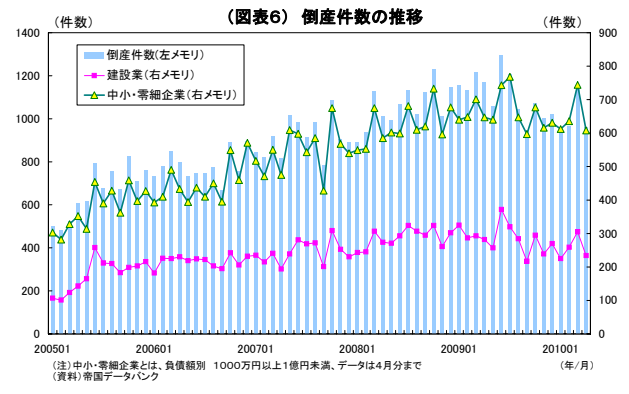
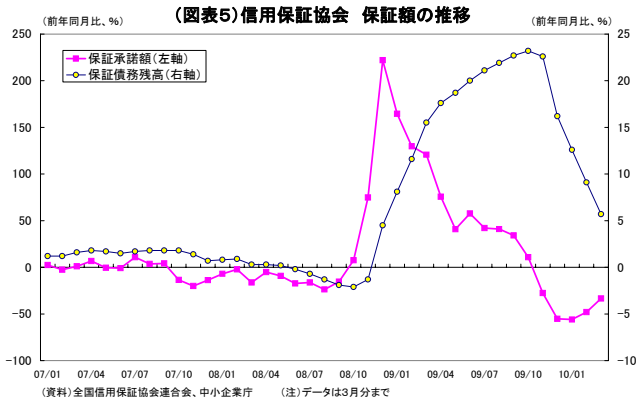
### 1. 貸出動向：貸出減少が続く、政府の新成長戦略に注目

日銀が発表した貸出・資金吸収動向等によると、5月の銀行総貸出(平残)の前年同月比伸び率は▲2.1%と前月改定値の▲1.9%からマイナス幅がやや拡大した。

設備資金など企業の資金需要の低迷が未だ続いていることなどから、6ヶ月連続のマイナスとなり、貸出残高(396兆円)はリーマン・ショック時点(08年9月395兆円)の水準にほぼ戻った。大・中堅企業向けの減少が過去の反動もあって足元顕著だが、中小企業向けが長らく水面下の状況が続いている点が気になる(図表1~4)。従来、中小企業向け貸出を下支えしてきた政府の信用保証制度も、最近では保証承諾額が前年割れしており、効果に一巡感がみられる(図表5)。

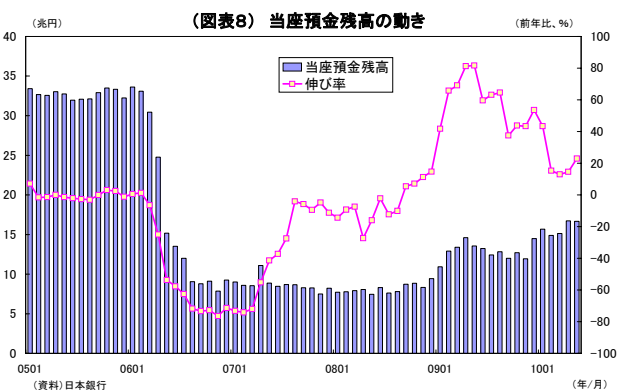
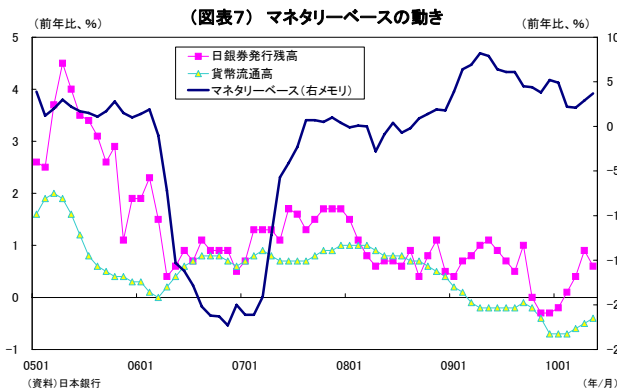
今月の注目点は、政府が公表を予定している新成長戦略だ。企業が自信を持って設備投資に踏み出せるような具体策、明確なビジョンが示されるのか、示されないのかかがポイントだ。





## 2. マネタリーベース：緩和姿勢が続く

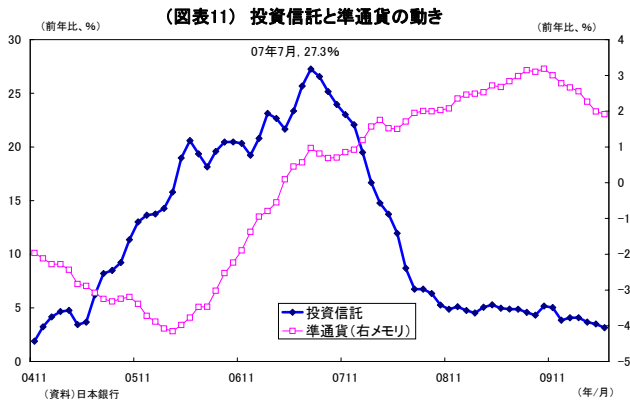
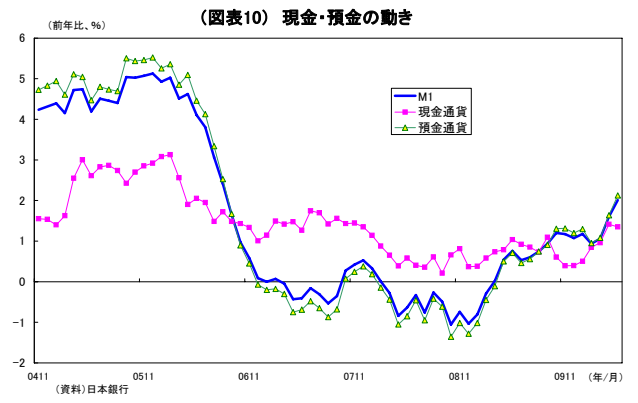
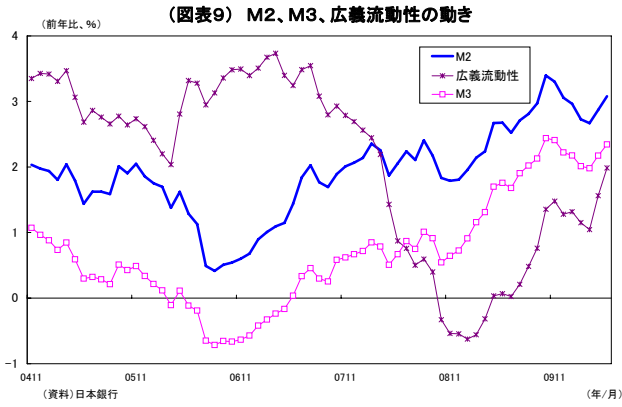
日銀による資金供給量を示す5月のマネタリーベースは、前年同月比 3.7%増と前月の同 2.9%から伸び率が上昇、4ヶ月ぶりの高い水準となった(前年比プラスは21ヶ月連続)。日銀が新型オペの資金供給枠を3月に拡大した影響に加え、ギリシャ問題の緊張感の高まりへの対応として資金供給を増やしたのが影響したようだ。日銀の金融政策に対する市場・政治からの期待は高く、緩和姿勢は今後も当面維持されるとみられることから、マネタリーベース残高は引き続き高水準で推移していこう(図表 7,8)。



## 3. マネーストック：通貨供給量の伸び率は拡大

通貨供給量の代表的指標である4月のM2(現金、国内銀行などの預金)平均残高は前年同月比 3.1%増(前月は 2.9%増)、M3(M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む)は同 2.3%増(前月は 2.2%増)、M3に投信や外債などを含めた広義流動性も前年比 2.0%増(前月は 1.6%増)と、それぞれ前月から伸び率が拡大した。(図表 9)。

なお、現金通貨と預金通貨(当座・普通預金など)を合わせたM1の伸び率は 2.0%と前月(1.6%)からさらに拡大した。M1の伸び率が準通貨(定期預金など)の伸び率を上回ったのは07年3月以来のことであり、前回指摘したように、景気の持ち直しとギリシャ問題など不透明感の高まりという強弱が交錯する中で、行き場を失った資金が一時的に現金・流動性預金として蓄積している可能性がある。今後の動きが注目される(図表 10, 11)。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。